

テープカットする村田さん（中央）
—桜ヶ丘ミュージアムで



現代アートの奥深さを味わって

豊川市桜ヶ丘
ミュージアム

村田さん新作などズラリ

22日まで企画展

豊川市桜ヶ丘ミュージアムで7月31日、企画展「村田千秋—記述の仕組み—」が始まった。同市出身の現代アート作家村田千秋さん（71）—豊橋市—の新作を含めた作品展が並ぶ。国内外で活躍する村田さんだが、個展としては東三河で初めて、22日まで。

開会記念式典では、村

田さんと日本書大市長らが出陣し、テープカットした。美術評論家の三浦谷廉生さんとの対談もあり、多くの人が詰めかけた。

村田さんは1949年10月、豊川市生まれ。市立東部中学校在籍時に近藤文雄さん（後の1977年没）に影響を受け、美術科に興味を持つ。豊橋南高校、京都市立芸術を経て

1977年、地元へ戻り東三河の高校で美術を教えつづき、個展やグループ展などの発表を重ねてきた。

会場には机、椅子などの最近のものを立体作品にした展示、壁面を利用したドリーフ状の作品などが並ぶ。美術展の村田有紀子さんは「最近の現代美術はアミューズメン

ト化する傾向にある。村田さんの作品は難解で見る人を突き放す。解説もほとんどないの

で、見ているとつくりと勘えてほしい」と呼びかけた。

村田さんは「遠方からも多くの人が会場に来てくれた。地元の人にも作品を味わってもらいたい」と話した。



多くの人が詰めかけた会場

ギャラリートークが3日午後7時からある。

【山田一星】